

令和5年(2023年)版

杉並区の交通事故概要

(令和5年1月～12月)

杉 並 区

杉並区交通安全協議会

交通安全杉並区宣言

近時、車両運行の急激な増加にともない、区内における交通事情は悪化の一途をたどり、事故は日とともに激増の傾向にあることは、まことに憂慮に堪えないところである。

杉並区は人命を尊重し、区民の生命財産をまもり、区内における交通事故の絶滅を期するため、これが施策を推進することを決意し、ここに交通安全都市を宣言する。

昭和40年3月31日

は じ め に

令和5年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための行動制限が撤廃され、社会経済活動の正常化が進んだことなどから、杉並区内の交通事故発生件数は大幅に増加し、令和4年より128件増の1,021件でした。4年ぶりに交通事故件数が1,000件を超え、ここ数年の増加傾向が続いています。負傷者は111人増加して1,129人、死者は3人増えて7人でした。

近年の電動アシスト自転車の普及、エコ活動への取り組みや健康志向の高まり、自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成を推進する施策などから、自転車利用が活性化する一方で、その手軽さゆえに交通ルールや交通マナーを無視した運転から自転車の事故が増えており、交通事故全体に占める自転車関与事故の割合は年々増加しています。

このような状況の改善には、交通事故の特徴を把握し、効果的な交通安全施策を地道に継続していくことで交通事故を減少させ、区民の皆さんが、安心して、快適に暮らすことができるまちにしていかなければなりません。

本書は、令和5年中の交通事故発生状況をまとめたものであり、今後の交通安全施策並びに交通安全教育を推進していく上の資料として、広く活用していただき、交通事故防止の一助となれば幸いです。

なお、本書の作成にあたり、資料の提供等、多大なご協力をいただきました、各関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

令和6年3月

都市整備部 杉並土木事務所

目 次

序

はじめに

目 次

用語解説

第一章 全国・東京都・杉並区における交通事故発生状況

- 1 交通事故発生件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
(参考) 23 区の交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・2
- 2 交通事故による死者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 3 交通事故による負傷者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

第二章 杉並区における交通事故発生状況

- 1 死亡事故の発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
(1) 死亡事故の概要
(2) 当事者別・年齢別死亡事故発生状況
- 2 道路種別・道路形状別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・7
- 3 当事者別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 4 年齢別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
(1) 年齢別交通事故発生状況
(2) 子どもの交通事故発生状況
(3) 高齢者の交通事故発生状況
(4) 若年層の交通事故発生状況
- 5 事故類型別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
(1) 事故類型別交通事故発生状況
(2) 事故類型別交通事故発生状況の内訳
- 6 昼夜別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 7 時間帯別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- 8 車両側の違反による交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 9 歩行者の違反による交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

第三章 杉並区内各警察署管内における交通事故発生状況

- 1 杉並警察署管内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
 - (1) 交通事故発生状況
 - (2) 路線別交通事故発生状況
 - (3) 当事者別交通事故発生状況
 - (4) 年齢別交通事故発生状況

- 2 高井戸警察署管内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
 - (1) 交通事故発生状況
 - (2) 路線別交通事故発生状況
 - (3) 当事者別交通事故発生状況
 - (4) 年齢別交通事故発生状況

- 3 荻窪警察署管内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
 - (1) 交通事故発生状況
 - (2) 路線別交通事故発生状況
 - (3) 当事者別交通事故発生状況
 - (4) 年齢別交通事故発生状況

用語解説

本書で使用している主な用語の意味は、以下のとおりです。

交通事故	……	道路交通法第2条第1項に規定されている道路において、車両、路面電車及び列車(軌道車)の交通によって起こされた、人の死亡又は負傷を伴った事故及び物的損害を伴った事故をいう。 但し、本書には人身事故のみを計上している。
人身事故	……	交通事故により人の死傷があったものをいう。
死亡(死者)	……	交通事故発生から24時間以内に死亡した場合(人)をいう。
重傷(重傷者)	……	交通事故により負傷し加療日数が30日以上の場合(人)をいう。
軽傷(軽傷者)	……	交通事故により負傷し加療日数が30日未満の場合(人)をいう。
負傷(負傷者)	……	重傷(重傷者)と軽傷(軽傷者)の合計をいう。
当事者	……	交通事故に関係した人をいうが、車両等が関係した事故の運転者については、運転中の車両等を当事者としている。
第1当事者	……	過失(違反)がより重いか又は過失(違反)が同程度の場合には、被害がより小さい方の当事者をいう。
第2当事者	……	過失(違反)がより軽いか又は過失(違反)が同程度の場合には、被害がより大きい方の当事者をいう。
子どもの事故	……	幼児、小学生、中学生が関与した交通事故をいう。
若年層の事故	……	中学校卒業後から25歳未満までの年齢層の人が関与した交通事故をいう。
高齢者の事故	……	年齢65歳以上の人に関与した交通事故をいう。
昼夜の交通事故	……	昼は日の出から日没までをいい、夜は日没から次の日の出までをいう。
事故類型	……	事故をまず当事者の種類(人または車両)によって類型化し、次いで、当事者の事故時の行動(動き、位置、衝突物等)によって更に細かく類型化したものをいう。

- 1 本書は、警視庁集計の交通事故統計表及び警視庁総務部文書課提供の交通事故統計資料に基づき作成しました。
- 2 全国と東京都の数値には、高速道路の交通事故が含まれています。
- 3 各表欄外に「発生件数は第1当事者、第2当事者の合計数である。」とある表においては、交通事故一件における第1当事者及び第2当事者のそれぞれを計上した数値であり、交通事故発生件数とは異なります。
- 4 各警察署管内における交通事故発生状況の数値は、各警察署において取り扱った件数であり、図表中及び文中の数値と一致しない場合があります。
- 5 図表中及び文中の構成率、割合については、小数点第二位で四捨五入したため、図表中及び文中の数値と一致しない場合があります。

第一章 全国・東京都・杉並区における交通事故発生状況

1 交通事故発生件数

- ①全国は 307,911 件で、前年より 7,072 件(2.4%)増加した。
- ②東京都は 31,385 件で、前年より 1,215 件(4.0%)増加した。
- ③杉並区は 1,021 件で、前年より 128 件(14.3%)増加した。

図1 交通事故発生件数の推移
(令和元年を100とした場合)

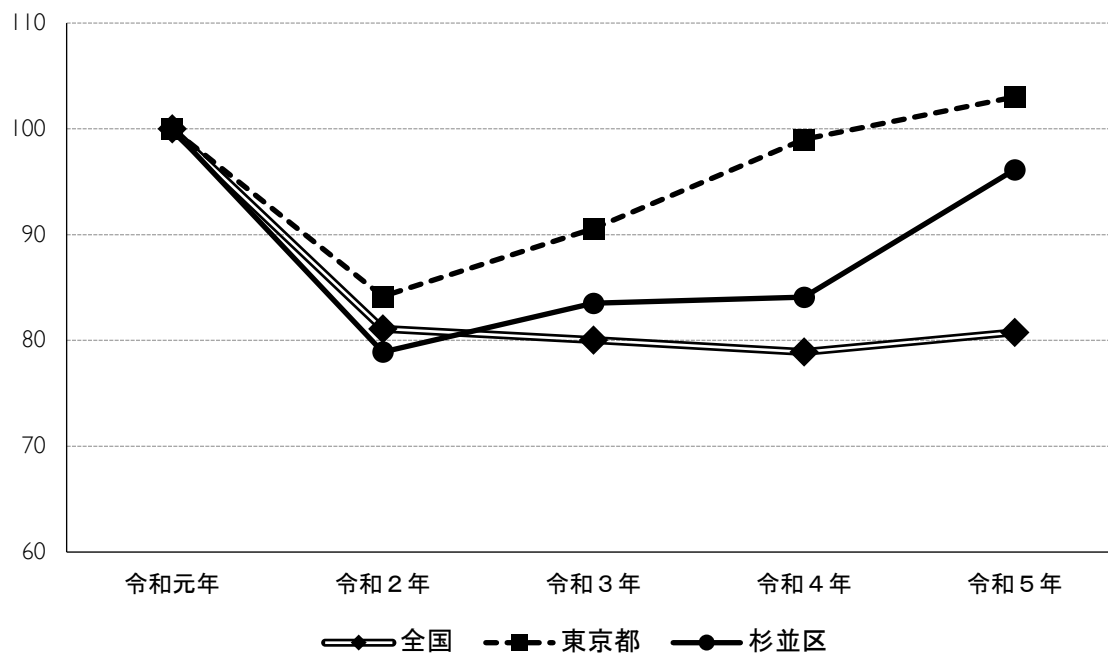


表1 交通事故発生件数の推移

		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全 国	件数	381,237	309,178	305,196	300,839	307,911
	指数	100.0	81.1	80.1	78.9	80.8
東 京 都	件数	30,467	25,642	27,598	30,170	31,385
	指数	100.0	84.2	90.6	99.0	103.0
杉 並 区	件数	1,062	838	887	893	1,021
	指数	100.0	78.9	83.5	84.1	96.1

※全国の発生件数は、警察庁の統計表(令和6年1月4日)の数値である。
 ※令和4年の全国の発生件数は遡って修正された。
 ※交通事故の認定状況により、集計時点での数値が異なる場合がある。

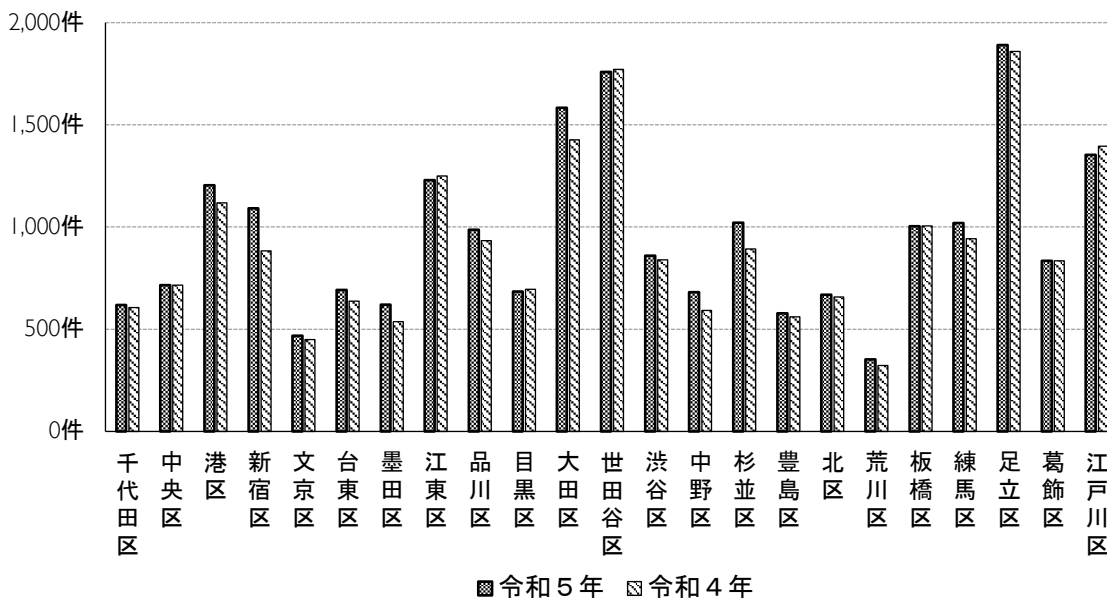
(参考) 23 区の交通事故発生状況

表 2 23 区の交通事故発生状況

	発生件数	増減数	死者数	増減数	負傷者数	増減数
千代田区	618	+12	1	-2	699	+6
中央区	716	±0	1	-1	788	-24
港区	1,204	+85	5	+3	1,348	+116
新宿区	1,092	+209	7	+3	1,199	+200
文京区	469	+19	1	-1	504	+22
台東区	693	+55	5	+3	753	+57
墨田区	620	+83	4	+3	674	+101
江東区	1,230	-20	6	+4	1,344	-4
品川区	986	+52	2	+1	1,078	+80
目黒区	685	-11	2	-2	740	+2
大田区	1,583	+157	11	+1	1,719	+175
世田谷区	1,759	-12	9	±0	1,941	-4
渋谷区	860	+20	4	-1	938	+21
中野区	682	+90	1	-2	724	+101
杉並区	1,021	+128	7	+3	1,129	+111
豊島区	578	+17	1	±0	611	+8
北区	668	+10	0	-4	739	+44
荒川区	352	+29	2	+1	381	+33
板橋区	1,004	-1	6	-1	1,119	+11
練馬区	1,019	+76	8	-1	1,121	+69
足立区	1,891	+32	8	-2	2,067	+66
葛飾区	835	+1	3	-1	907	+19
江戸川区	1,353	-42	8	+4	1,519	-25

※発生件数等は各区内の交通事故件数であり、警察署別の統計数値と一致しない場合がある。

図 2 23 区の交通事故発生状況



2 交通事故による死者数

- ①全国は2,678人で、前年より68人(2.6%)増加した。
- ②東京都は136人で、前年より4人(3.0%)増加した。
- ③杉並区は7人で、前年より3人(75.0%)増加した。

図3 交通事故による死者数の推移
(令和元年を100とした場合)

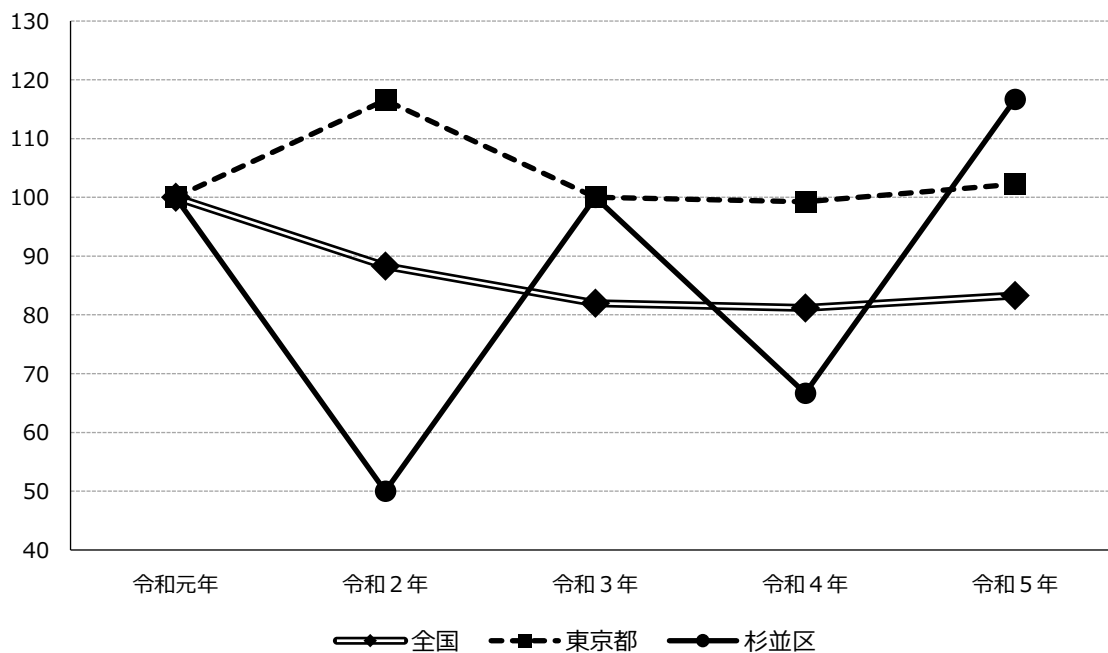


表3 交通事故による死者数の推移

		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全 国	人数	3,215	2,839	2,636	2,610	2,678
	指数	100.0	88.3	82.0	81.2	83.3
東 京 都	人数	133	155	133	132	136
	指数	100.0	116.5	100.0	99.2	102.3
杉 並 区	人数	6	3	6	4	7
	指数	100.0	50.0	100.0	66.7	116.7

※全国的人数は、警察庁の統計表(令和6年1月4日)の数値である。

3 交通事故による負傷者数

- ①全国は 365,027 人で、前年より 8,426 人(2.4%)増加した。
- ②東京都は 34,870 人で、前年より 1,441 人(4.3%)増加した。
- ③杉並区は 1,129 人で、前年より 111 人(10.9%)増加した。

図4 交通事故による負傷者数の推移
(令和元年を100とした場合)

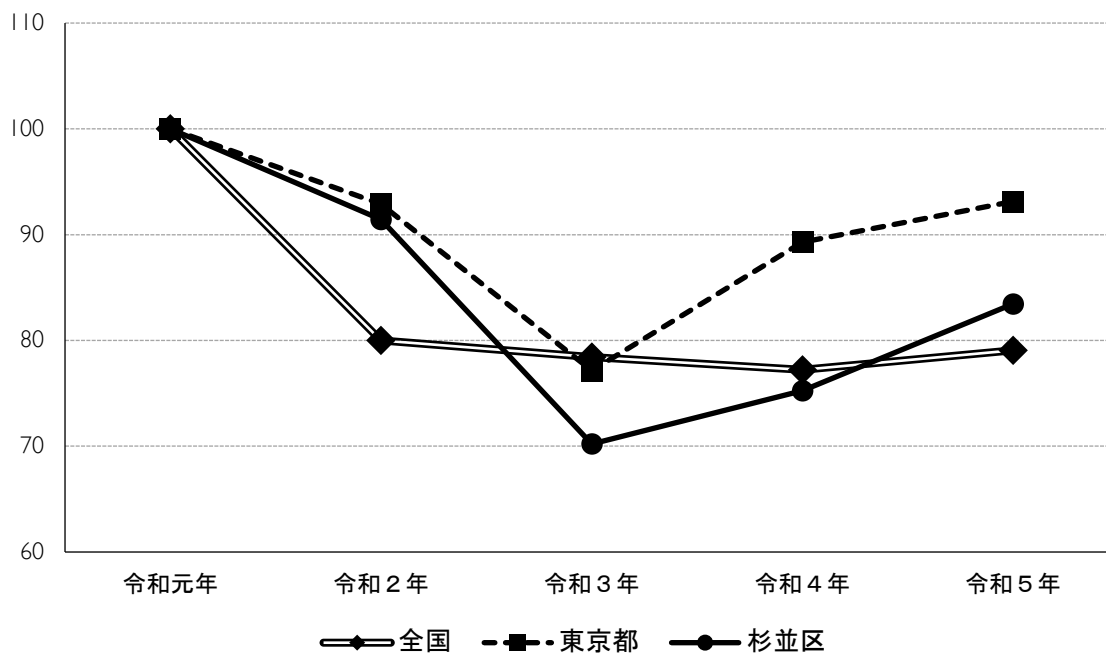


表4 交通事故による負傷者数の推移

		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全 国	人数	461,775	369,476	362,131	356,601	365,027
	指数	100.0	80.0	78.4	77.2	79.0
東 京 都	人数	34,777	28,888	30,836	33,429	34,870
	指数	100.0	83.1	88.7	96.1	100.3
杉 並 区	人数	1,237	950	1,000	1,018	1,129
	指数	100.0	76.8	80.8	82.3	91.3

※全国的人数は、警察庁の統計表(令和6年1月4日)の数値である。
 ※令和4年の全国の負傷者数は遡って修正された。

第二章 杉並区における交通事故発生状況

1 死亡事故の発生状況

(1) 死亡事故の概要

- ①死亡事故は6件で、前年より2件増加した。
- ②路線別では国道1件、主要都道2件、一般都道1件、区道2件だった。
- ③昼夜別では昼0件、夜6件だった。

表5 死亡事故の概要

	月日	時刻	発生場所	路線名	死亡者		相手方
					年齢	属性	
1	4/14	20:22	堀ノ内一丁目	環七通り	60歳代	歩行者	事業用準中型貨物車
2	7/31	03:18	阿佐谷南三丁目	青梅街道	30歳代	自動二輪	自家用中型貨物車
3	9/22	00:55	和泉一丁目	国道20号	30歳代	自転車	自家用大型貨物車
4	12/1	04:55	上荻三丁目	区道	70歳代	自転車	物件等
5	12/2	03:25	西荻南三丁目	区道	50歳代	自家用中型貨物車	物件等
6	12/26	17:07	高井戸東三丁目	井ノ頭通り	40歳代	歩行者	自家用普通乗用車
					小学生		

※主要都道とは、環七通り、環八通り、早稲田通り、方南通り、青梅街道、新青梅街道、五日市街道、人見街道をいう。

図5 路線別死亡事故発生状況

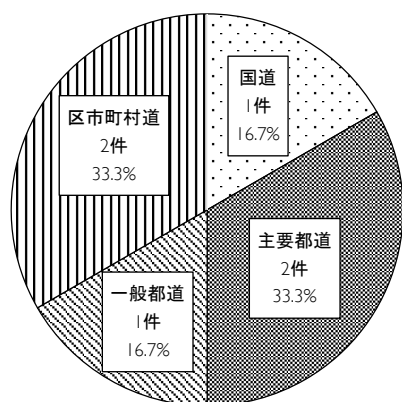
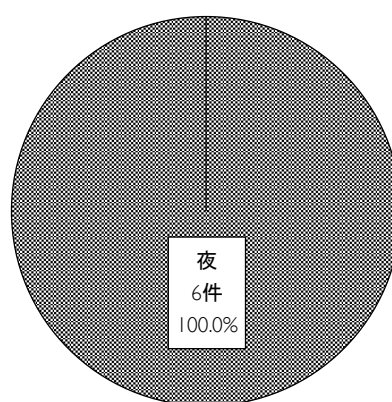


図6 昼夜別死亡事故発生状況



(2) 当事者別死亡事故発生状況

- ①当事者別発生件数は、二輪車1件、自転車2件、歩行者3件だった。
- ②当事者別死者数は、二輪車1人、自転車2人、歩行者4人だった。

表6 当事者別死亡事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者
発生件数	0	0	0	1	2	3
死者数	0	0	0	1	2	4

図7 当事者別死亡事故発生状況

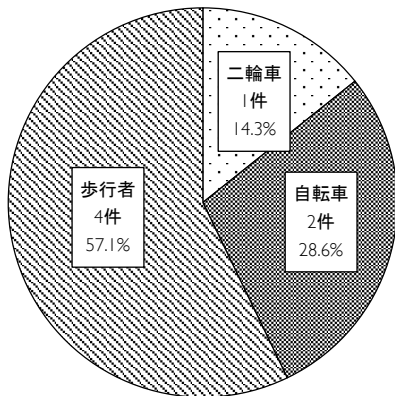
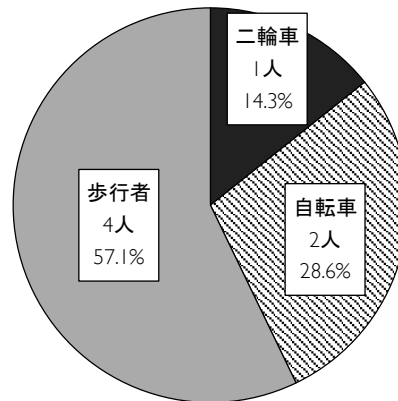


図8 当事者別死亡事故死者数



2 道路種別・道路形状別交通事故発生状況

- ①道路種別では主要都道の426件(41.7%)が最も多く、次いで区道の402件(39.4%)、一般都道の126件(12.3%)の順だった。
- ②道路形状別では単路の508件(49.8%)が最も多く、次いで交差点の429件(42.0%)、交差点付近の69件(6.8%)の順だった。

図9 道路種別交通事故発生状況

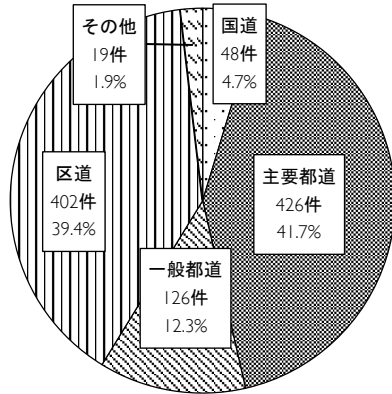


図10 道路形状別交通事故発生状況

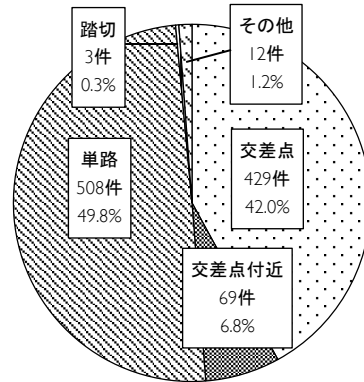


表7 道路種別交通事故発生状況

	国 道	主要都道	一般都道	区 道	自動車専用道	そ の 他
発生件数	48	426	126	402	0	19
増減数	-3	+52	+24	+69	±0	-14
死者数	1	2	2	2	0	0
重傷者数	7	25	19	15	0	0
軽傷者数	49	457	125	412	0	20

※主要都道とは、環七通り、環八通り、早稲田通り、方南通り、青梅街道、新青梅街道、五日市街道、人見街道をいう。

表8 道路形状別交通事故発生状況

	交 差 点			交差点 付 近	単 路			踏 切	そ の 他
	小 5.5m 未満	中 5.5m 以上	大 13.0m 以上		トンネル	橋	その他		
発生件数	233	133	63	69	6	8	494	3	12
増減数	+12	+45	+17	+7	±0	+1	+51	±0	-5
死者数	0	0	0	0	0	0	7	0	0
重傷者数	11	19	5	6	0	1	23	0	1
軽傷者数	242	134	67	72	7	11	516	3	11

※「交差点付近」とは、交差点の側端から30m以内の道路の部分をいう。

※「その他」とは、一般交通の用に供するその他の道路（駐車場等）をいう。

3 当事者別交通事故発生状況

- ①当事者別では乗用車の616件(30.2%)が最も多く、次いで自転車の605件(29.6%)、貨物車の286件(14.0%)の順だった。
- ②自転車が前年より132件(27.9%)、乗用車が前年より60件(10.8%)増加した。
- ③重傷者数、軽傷者数のいずれも自転車が最も多かった。

図 11 当事者別交通事故発生状況

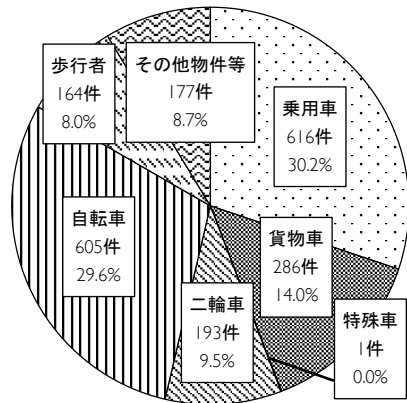


図 12 自転車の交通事故発生状況

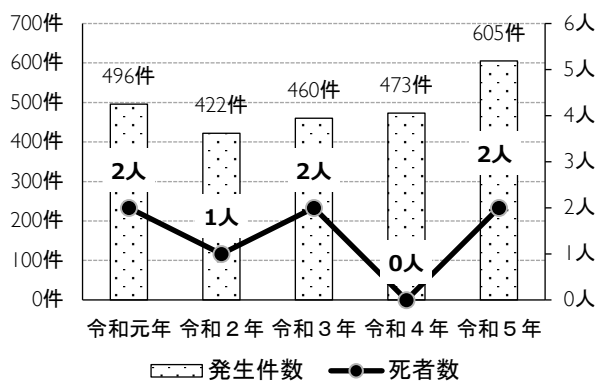


表 9 当事者別交通事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者	その他物件等
発生件数	616	286	1	193	605	164	177
増減数	+60	+19	±0	+4	+132	+3	+38
死者数	0	0	0	1	2	4	0
重傷者数	9	0	0	14	27	16	0
軽傷者数	219	89	0	145	462	147	1

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「その他」とは路面電車、列車、自転車以外の軽車両（リヤカー、荷車等）、道路上の歩行者以外の人、道路外、ひき逃げ等で当事者不明の人をいう。

4 年齢別交通事故発生状況

(1) 年齢別交通事故発生状況

- ①年齢別では50歳代の382件(18.7%)が最も多く、次いで高齢者の358件(17.5%)、40歳代の343件(16.8%)の順だった。この3世代で全体の53.0%を占めている。
- ②40歳代が前年より62件(22.1%)、高齢者が前年より52件(17.0%)、50歳代が前年より51件(15.4%)増加した。
- ③重傷者数は50歳代の18人が最も多く、軽傷者数では40歳代の201人が最も多かった。

図13 年齢別交通事故発生状況

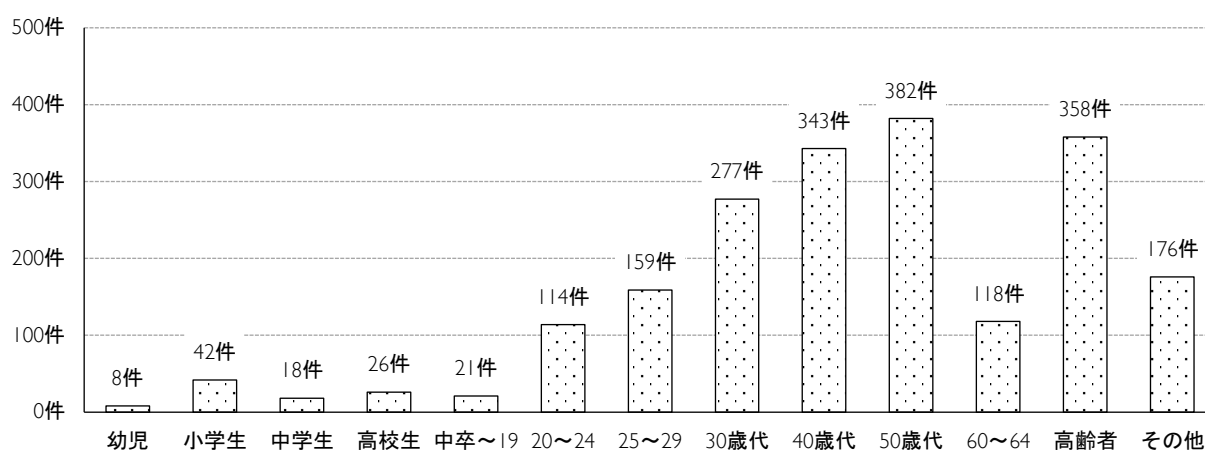


表10 年齢別交通事故発生状況

	幼 児	小 学 生	中 学 生	高 校 生	中卒~19歳	20~24 歳	25~29 歳
発生件数	8	42	18	26	21	114	159
増減数	+2	+14	+8	-6	-8	+9	+31
死者数	0	1	0	0	0	0	0
重傷者数	0	3	1	1	0	2	3
軽傷者数	19	41	12	17	10	74	78

	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60~64歳	高 齢 者	そ の 他
発生件数	277	343	382	118	358	176
増減数	-6	+62	+51	+10	+52	+37
死者数	2	1	1	0	2	0
重傷者数	6	13	18	3	16	0
軽傷者数	171	201	197	54	189	0

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「幼児」とは、児童福祉法に定められる、満一歳から小学校就学始期に達するまでをいう。

※「その他」とは、ひき逃げ等で不明な場合、物件等をいう。

(2) 子どもの交通事故発生状況

- ①発生件数は68件で、前年より24件(54.5%)増加した。
- ②死亡事故が1件発生した。
- ③重傷者数は4人で、前年より4人増加した。軽傷者数は72人で、前年より15人(26.3%)増加した。
- ④当事者別では自転車が51件(75.0%)で、歩行者が17件(25.0%)だった。
- ⑤自転車は前年より28件(121.7%)増加し、歩行者は前年より4件(19.0%)減少した。

図14 子どもの交通事故発生状況

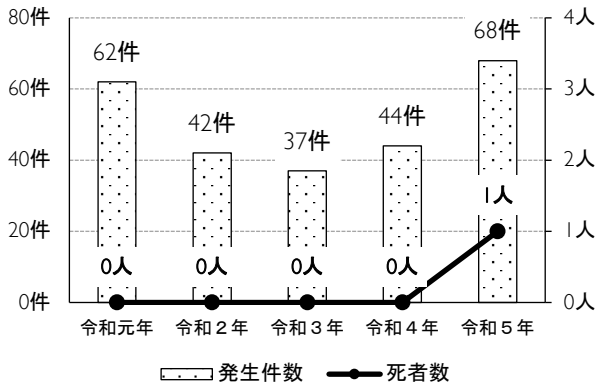


図15 子どもの当事者別発生状況

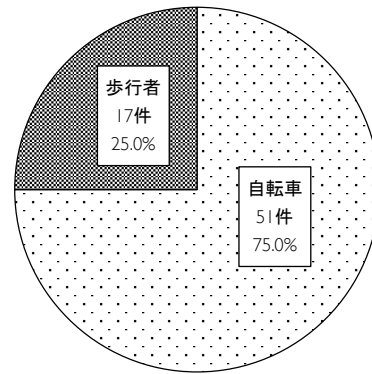


表11 子どもの交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和5年	68	1	4	72
増減数	+24	+1	+4	+15
令和4年	44	0	0	57

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。
 ※「子ども」とは、幼児、小学生、中学生を合わせたものをいう。

表12 子どもの当事者別発生状況

	自転車			歩行者			合計
	幼児	小学生	中学生	幼児	小学生	中学生	
発生件数	2	32	17	6	10	1	68
増減数	+2	+17	+9	±0	-3	-1	+24

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。
 ※「子ども」とは、幼児、小学生、中学生を合わせたものをいう。

(3) 高齢者の交通事故発生状況

- ①発生件数は358件で、前年より52件(17.0%)増加した。
- ②死者数は2人で、前年より1人増加した。
- ③重傷者数は16人で、前年より3人(15.8%)減少した。軽傷者数は189人で、前年より36人(23.5%)増加した。

表 13 高齢者の交通事故発生状況

		発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和5年		358	2	16	189
	増減数	+52	+1	-3	+36
令和4年		306	1	19	153

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「高齢者」とは年齢65歳以上をいう。

図 16 高齢者の交通事故発生状況

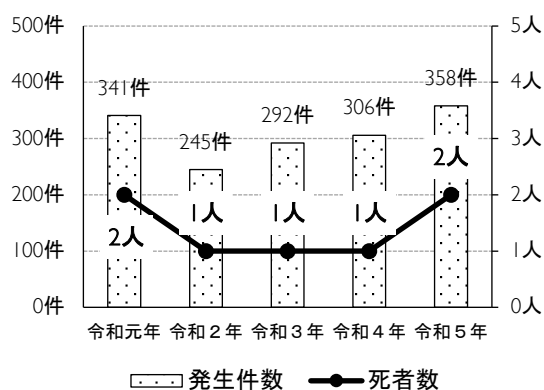
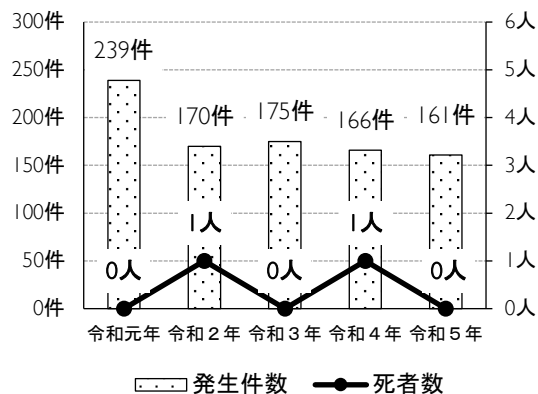


図 17 若年層の交通事故発生状況



(4) 若年層の交通事故発生状況

- ①発生件数は161件で、前年より5件(3.0%)減少した。
- ②死者数は0人で、前年より1人減少した。
- ③重傷者数は3人で、前年より5人(62.5%)減少した。軽傷者数は101人で、前年より20人(24.7%)増加した。

表 14 若年層の交通事故発生状況

		発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和5年		161	0	3	101
	増減数	-5	-1	-5	+20
令和4年		166	1	8	81

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「若年層」とは、高校生、中学校卒業～19歳、20歳～24歳を合わせたものをいう。

5 事故類型別交通事故発生状況

(1) 事故類型別交通事故発生状況

- ①発生件数は人対車両が164件(16.1%)、車両相互が699件(68.5%)、車両単独が158件(15.5%)だった。車両相互の事故が事故全体の約7割を占めている。
- ②死者数は人対車両が4人で、前年より2人(100.0%)増加した。車両相互は2人で、前年より1人(100.0%)増加した。車両単独は1人で、前年と同じだった。
- ③重傷者数は人対車両が16人で、前年より1人(6.7%)増加した。車両相互は44人で、前年より3人(6.4%)減少した。車両単独は6人で、前年より5人(500.0%)増加した。
- ④軽傷者数は人対車両が150人で、前年より1人(0.7%)増加した。車両相互は761人で、前年より81人(11.9%)増加した。車両単独は152人で、前年より26人(20.6%)増加した。
- ⑤令和5年中の列車の事故は発生しなかった。

図18 事故類型別交通事故発生状況

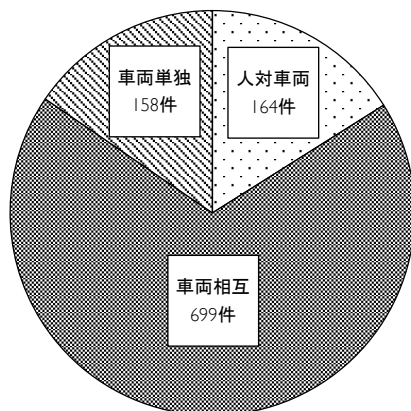


表15 事故類型別交通事故発生状況

	人 対 車 両				車 両 相 互			
	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和5年	164	4	16	150	699	2	44	761
増減数	+3	+2	+1	+1	+94	+1	-3	+81
令和4年	161	2	15	149	605	1	47	680

	車 両 単 独				列 車			
	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和5年	158	1	6	152	0	0	0	0
増減数	+31	±0	+5	+26	±0	±0	±0	±0
令和4年	127	1	1	126	0	0	0	0

(2) 事故類型別交通事故発生状況の内訳

- ①人対車両では横断中の86件(52.4%)が最も多く、次いで対面・背面通行中の57件(34.8%)だった。
- ②車両相互では出会い頭の244件(34.9%)が最も多く、次いで追突の198件(28.3%)、追越追抜時の69件(9.9%)の順だった。

図 19 人対車両の交通事故発生状況

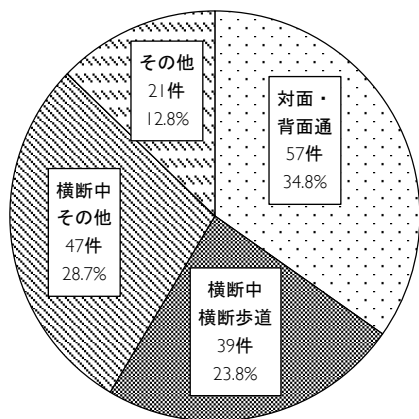


図 20 車両相互の交通事故発生状況

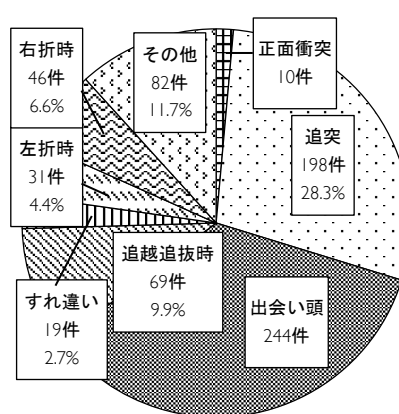


表 16 事故類型別交通事故発生状況の内訳

	人 対 車 両				
	対面・背面 通行中	横 断 中		路上横臥	その他
		横断歩道	その他		
発生件数	57	39	47	0	21
増減数	+9	+10	+10	-3	-23
死者数	0	0	1	0	3
重症者数	4	4	6	0	2
軽傷者数	54	36	43	0	17

	車 両 相 互							
	正面衝突	追 突	出会い頭	追越追抜時	すれ違い	左折時	右折時	その他
発生件数	10	198	244	69	19	31	46	82
増減数	+3	+19	+50	+6	+8	-8	+6	+10
死者数	0	1	0	0	0	0	0	1
重傷者数	2	2	16	9	1	1	5	8
軽傷者数	14	253	259	64	19	31	44	77

※人対車両－横断中の「その他」は横断歩道付近、横断歩道橋付近、それら以外の場所をいう。
 ※人対車両の「その他」は、一般の交通の用に供するその他の道路(駐車場等)の場合等をいう。
 ※車両相互の「その他」は、後退した際に自車後部を後車前部に衝突させた場合等をいう。

6 昼夜別交通事故発生状況

- ①発生件数は昼が 750 件(73.5%)で、前年より 94 件(14.3%)増加した。夜は 271 件(26.5%)で、前年より 34 件(14.3%)増加した。
- ②死者数は昼が 0 人で前年より 1 人(100.0%)減少した。夜は 7 人で、前年より 4 人(133.3%)増加した。
- ③重傷者数は昼が 44 人(66.7%)で、前年より 1 人(2.3%)増加した。夜は 22 人(33.3%)で、前年より 2 人(10.0%)増加した。
- ④軽傷者数は昼が 803 人(75.5%)で、前年より 103 人(14.7%)増加した。夜は 260 人(24.5%)で、前年より 5 人(2.0%)増加した。

図 21 昼夜別交通事故発生状況

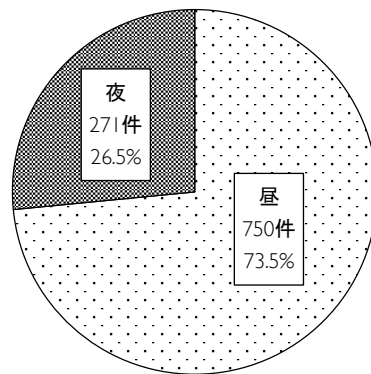


表 17 昼夜別交通事故発生状況

	昼				夜			
	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和 5 年	750	0	44	803	271	7	22	260
増減数	+94	-1	+1	+103	+34	+4	+2	+5
令和 4 年	656	1	43	700	237	3	20	255

※昼とは、日の出から日の入りまでの時間をいう。

※夜とは、日の入りから次の日の出までの時間をいう。

7 時間帯別交通事故発生状況

- ①発生件数は16時～18時の148件(14.5%)が最も多く、次いで10時～12時の145件(14.2%)、8時～10時の139件(13.6%)の順だった。
- ②16時～18時は前年より45件(43.7%)、14時～16時は前年より20件(18.3%)増加した。
- ③死者数は0時～2時が1人、2時～4時が2人、4時～6時が1人、16時～18時が2人、20時～22時が1人だった。
- ④重傷者数は8時～10時が10人で最も多かった。軽傷者数は16時～18時が154人で最も多かった。

図 22 時間帯別交通事故発生状況

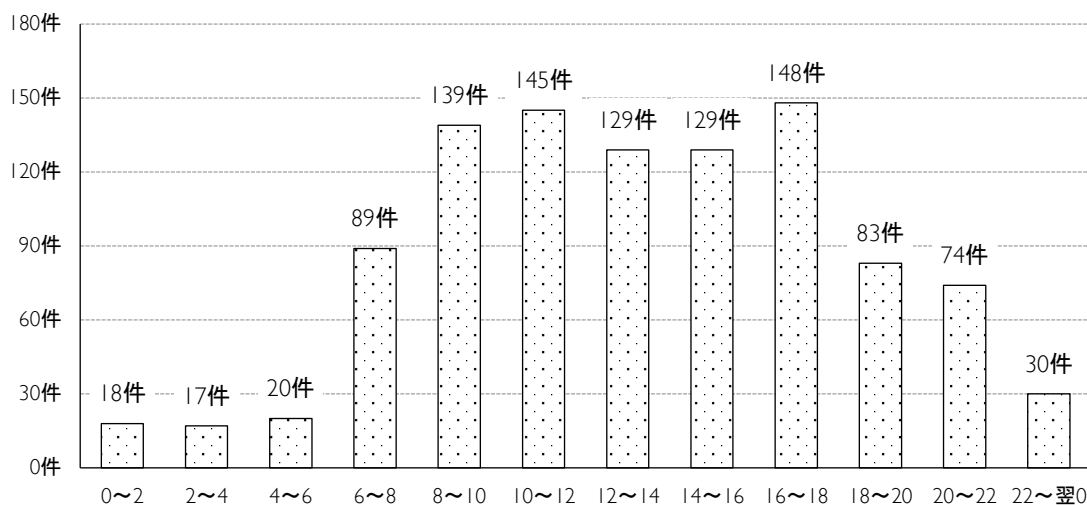


表 18 時間帯別交通事故発生状況

時間帯	0時～2時	2時～4時	4時～6時	6時～8時	8時～10時	10時～12時
発生件数	18	17	20	89	139	145
増減数	-2	±0	-1	+9	+13	+12
死者数	1	2	1	0	0	0
重傷者数	6	2	2	6	10	7
軽傷者数	11	13	20	99	151	150

時間帯	12時～14時	14時～16時	16時～18時	18時～20時	20時～22時	22時～翌0時
発生件数	129	129	148	83	74	30
増減数	+7	+20	+45	+2	+19	+4
死者数	0	0	2	0	1	0
重傷者数	7	9	6	2	6	3
軽傷者数	138	138	154	87	73	29

8 車両側の違反による交通事故発生状況

①発生件数は699件で、前年より64件(10.1%)増加した。

②違反別では安全不確認の198件(28.3%)が最も多く、次いで交差点安全進行違反の143件(20.5%)、前方不注意の128件(18.3%)の順だった。

図 23 車両側の違反による交通事故発生状況

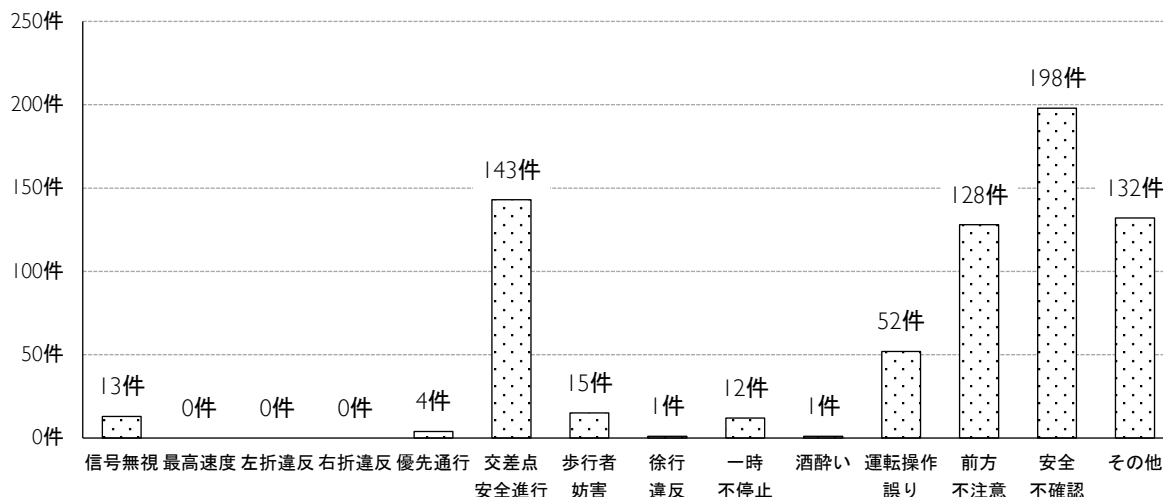


表 19 車両側の違反による交通事故発生状況

	信号無視	最高速度	左折違反	右折違反	優先通行	交差点安全進行	歩行者妨害	徐行違反
発生件数	13	0	0	0	4	143	15	1
増減数	+7	±0	-3	±0	+2	+20	+6	+1
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0
重傷者数	5	0	0	0	4	6	2	0
軽傷者数	13	0	0	0	0	149	13	1

	一時不停止	酒酔い	運転操作誤り	前方不注意	安全不確認	その他	合計
発生件数	12	1	52	128	198	132	699
増減数	+3	±0	+19	+22	+14	-27	+64
死者数	0	0	2	0	1	2	5
重傷者数	1	0	5	3	11	8	45
軽傷者数	12	1	48	165	201	143	746

※発生件数は、原付以上の車両による事故で、第1当事者の件数である。

※死者数、重症者数、軽傷者数は、第1当事者の違反別事故全体の人数である。

※「その他」とは、ひき逃げ等で不明な場合及び物件等をいう。

9 歩行者の違反による交通事故発生状況

- ①発生件数は17件で、前年より6件(26.1%)減少した。
- ②違反別ではその他の横断違反とその他違反の4件(23.5%)が最も多く、次いで、横断禁止場所横断の3件(17.6%)だった。
- ③歩行者に違反がない事故は147件で、歩行者関与事故の89.6%を占めている。

図 24 歩行者の違反による交通事故発生状況

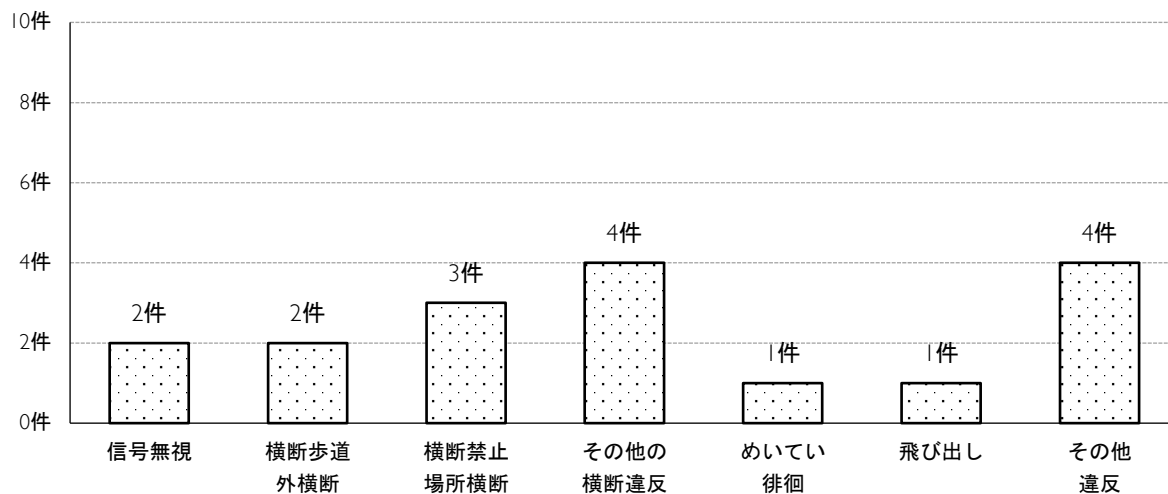


表 20 歩行者の違反による交通事故発生状況

	信号無視	横断歩道外横断	横断禁止場所横断	その他横断違反	めいてい徘徊	飛び出し	その他違反	合計	違反なし
発生件数	2	2	3	4	1	1	4	17	147
増減数	±0	±0	-3	+2	-2	-6	+3	-6	+9
死者数	0	0	1	0	0	0	0	1	3
重傷者数	0	1	1	2	1	1	2	8	8
軽傷者数	2	1	1	2	0	0	2	8	139

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

第三章 杉並区内各警察署管内における交通事故発生状況

1 杉並警察署管内

(1) 交通事故発生状況

- ①発生件数は378件で、前年より82件(27.7%)増加した。
- ②死者数は1人で、前年より1人減少した。
- ③重傷者数は8人で、前年より14人(63.6%)減少した。軽傷者数は412人で、前年より105人(34.2%)増加した。

表 21 杉並警察署内交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和5年	378	1	8	412
増減数	+82	-1	-14	+105
令和4年	296	2	22	307

※各警察署の件数等は取り扱い件数であり、その合計数と区内の発生件数等は必ずしも一致しない。

図 25 交通事故発生件数の推移
(令和元年を100とした場合)

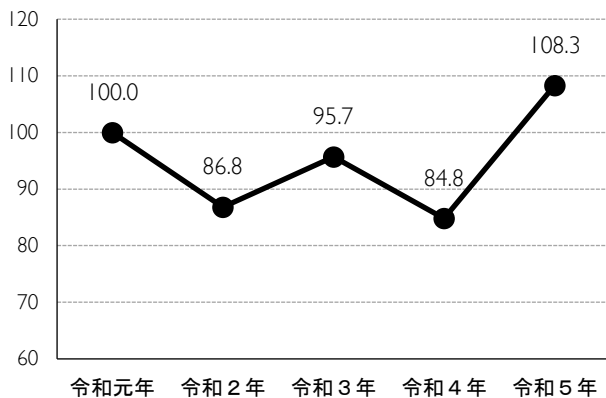
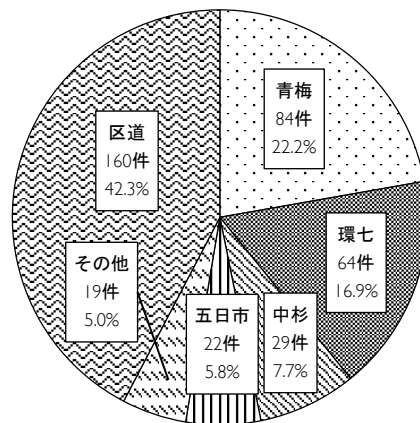


図 26 路線別交通事故発生状況



(2) 路線別交通事故発生状況

- ①発生件数は青梅街道の84件(22.2%)が最も多く、次いで環七通りの64件(16.9%)、中杉通りの29件(7.7%)の順だった。この三路線で全体の46.8%を占めている。
- ②区道の発生件数は160件で、前年より26件(19.4%)増加した。

表 22 路線別交通事故発生状況

	青梅街道	環七通り	中杉通り	五日市街道	その他の都道	区道
発生件数	84	64	29	22	19	160
増減数	+31	+1	+14	+7	+3	+26

※発生件数は、警視庁文書課提供の数値である。

(3) 当事者別交通事故発生状況

①発生件数は自転車の260件(34.4%)が最も多く、次いで乗用車の188件(24.9%)、貨物車の109件(14.4%)の順だった。

②乗用車は前年より41件(27.9%)、自転車は74件(39.8%)増加した。

表23 当事者別交通事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者	その他物件等
発生件数	188	109	0	77	260	68	54
増減数	+41	+12	±0	+9	+74	+13	+15

表24 自転車の相手当事者別事故件数

※自転車相互事故は1事故2件になっている。

	乗用車	貨物車	二輪車	自転車※	歩行者	その他 (相手不明、単独等)
発生件数	9	4	1	45	27	43

※表23、表24の発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

自転車関与率：(自転車事故件数－自転車相互件数)÷発生件数＝56.9%

図27 当事者別交通事故発生状況

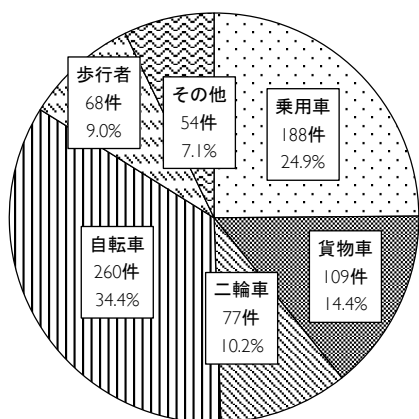
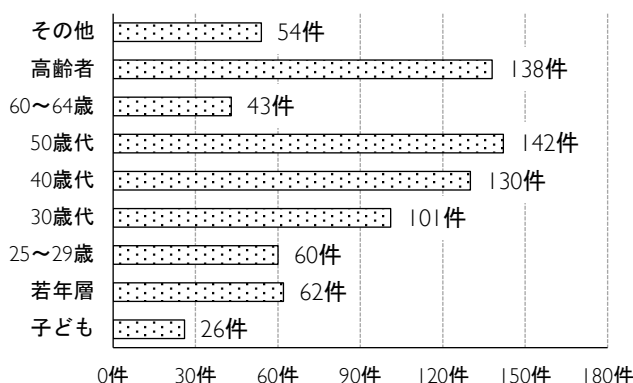


図28 年齢別交通事故発生状況



(4) 年齢別交通事故発生状況

①年齢別では50歳代の142件(18.8%)が最も多く、次いで高齢者の138件(18.3%)、40歳代の130件(17.2%)の順だった。

②50歳代が前年より36件(34.0%)、40歳代が前年より30件(30.0%)、高齢者が前年より28件(25.5%)増加した。

表25 年齢別交通事故発生状況

	子ども	若年層	25歳～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳～64歳	高齢者	その他
発生件数	26	62	60	101	130	142	43	138	54
増減数	+11	+4	+25	+16	+30	+36	-1	+28	+15

※発生件数は第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「子ども」は、幼児、小学生、中学生を合わせたもの、「若年層」は、高校生と中卒～19歳、20～24歳を合わせたもの、「高齢者」は、年齢65歳以上をいう。

※「その他」は、ひき逃げ等で不明な場合、物件等をいう。

2 高井戸警察署管内

(1) 交通事故発生状況

- ①事故件数は378件で、前年より5件(1.3%)減少した。
- ②死者数は4人で、前年より4人増加した。
- ③重傷者数は47人で、前年より24人(104.3%)増加した。軽傷者数は375人で、前年より36人(8.8%)減少した。

表 26 交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和5年	378	4	47	375
増減数	-5	+4	+24	-36
令和4年	383	0	23	411

図 29 交通事故発生件数の推移
(令和元年を100とした場合)

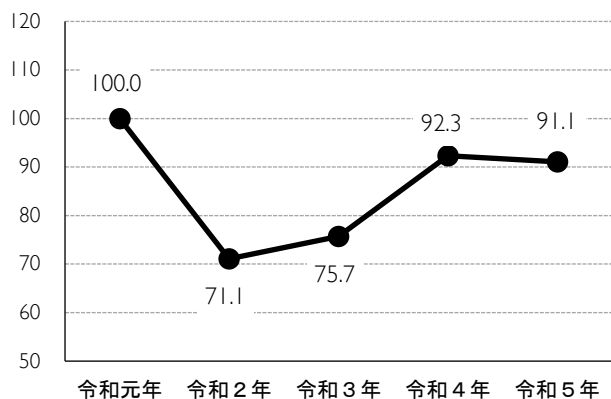
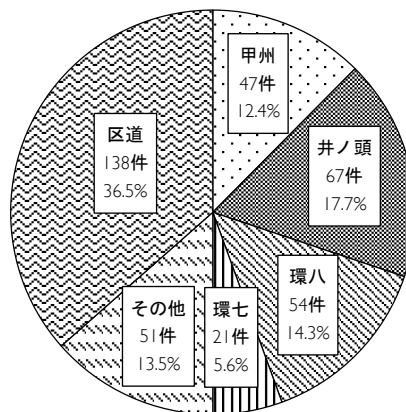


図 30 路線別交通事故発生状況



(2) 路線別交通事故発生状況

- ①路線別では井ノ頭通りの67件(17.7%)が最も多く、次いで環八通りの54件(14.3%)、その他の都道の51件(13.5%)の順だった。この三路線で全体の45.5%を占めている。
- ②井ノ頭通りが前年より6件(9.8%)増加した。環七通りは前年より7件(25.0%)減少した。
- ③区道の発生件数は138件(36.5%)で、前年より8件(5.5%)減少した。

表 27 路線別交通事故発生状況

	甲州街道	井ノ頭通り	環八通り	環七通り	その他の都道	区道
発生件数	47	67	54	21	51	138
増減数	-4	+6	+3	-7	+5	-8

※発生件数は、警視庁文書課提供の数値による。

(3) 当事者別交通事故発生状況

- ①当事者別では乗用車の242件(32.0%)が最も多く、次いで自転車の210件(27.8%)、その他の物件等91件(12.0%)の順だった。
- ②貨物車は前年より21件(21.0%)減少した。自転車は前年より24件(12.9%)増加した。

表 28 当事者別交通事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者	その他物件等
発生件数	242	79	0	83	210	51	91
増減数	-10	-21	-1	+6	+24	-15	+7

表 29 自転車の相手当事者別事故件数

※自転車相互事故は1事故2件になっている。

	乗用車	貨物車	二輪車	自転車※	歩行者	その他 (相手不明、単独等)
発生件数	9	4	1	25	12	60

※表 28、表 29 の発生件数は、第 1 当事者、第 2 当事者の合計数である。

自転車関与率：(自転車事故件数－自転車相互件数)÷発生件数=48.9%

図 31 当事者別交通事故発生状況

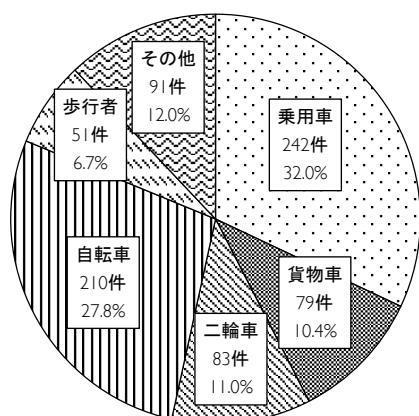
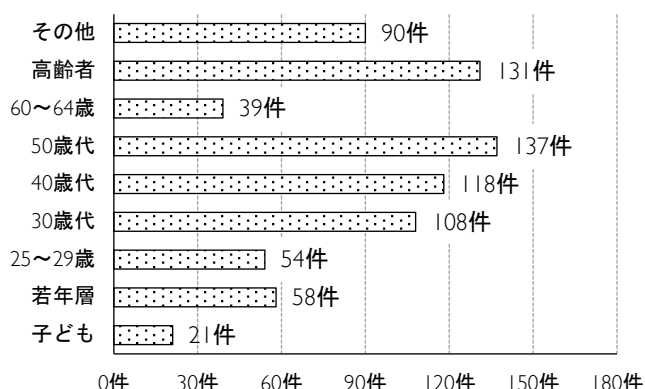


図 32 年齢別交通事故発生状況



(4) 年齢別交通事故発生状況

- ①年齢別では50歳代の137件(18.1%)が最も多く、次いで高齢者の131件(17.3%)、40歳代の118件(15.6%)の順だった。
- ②40歳代が前年より7件(6.3%)増加した。30歳代は前年より12件(10.0%)、若年層も前年より14件(19.4%)減少した。

表 30 年齢別交通事故発生状況

	子ども	若年層	25歳 ～ 29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 ～ 64歳	高齢者	その他
発生件数	21	58	54	108	118	137	39	131	90
増減数	+4	-14	±0	-12	+7	-5	±0	+4	+6

※発生件数は、第 1 当事者、第 2 当事者の合計数である。

※「子ども」は、幼児、小学生、中学生を合わせたものをいう。

※「若年層」は、高校生と中卒～19歳、20～24歳を合わせたものをいう。

※「その他」とは、ひき逃げ等で不明な場合や物件等をいう。

3 荻窪警察署管内

(1) 交通事故発生状況

- ①発生件数は257件で、前年より39件(17.9%)増加した。
- ②死者数は2人で、前年と同じだった。
- ③重傷者数は12人で、前年より5人(29.4%)減少した。軽傷者数は267人で、前年より26人(10.8%)増加した。

表 31 交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和5年	257	2	12	267
増減数	+39	±0	-5	+26
令和4年	218	2	17	241

図 33 交通事故発生件数の推移
(令和元年を100とした場合)

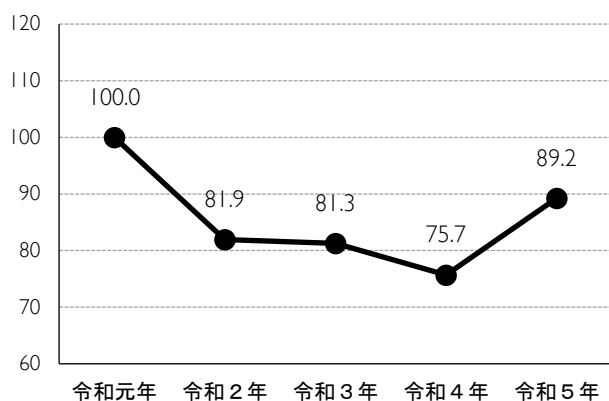
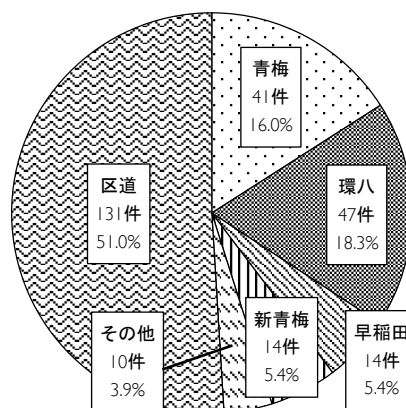


図 34 路線別交通事故発生状況



(2) 路線別交通事故発生状況

- ①路線別では環八通りの47件(18.3%)が最も多く、次いで青梅街道の41件(16.0%)、早稲田通りと新青梅街道の14件(5.4%)の順だった。この四路線で全体の45.1%を占めている。
- ②区道の発生件数は131件(51.0%)で、前年より26件(24.8%)増加した。

表 32 路線別交通事故発生状況

	青梅街道	環八通り	早稲田通り	新青梅街道	その他の都道	区道
発生件数	41	47	14	14	10	131
増減数	-3	+8	+1	+1	+6	+26

※発生件数は、警視庁総務部文書課提供の数値である。

(3) 当事者別交通事故発生状況

- ①当事者別では乗用車の180件(35.0%)が最も多く、次いで自転車の129件(25.1%)、貨物車の98件(19.1%)の順だった。
- ②貨物車が前年より26件(36.1%)、自転車が前年より24件(22.9%)、乗用車が前年より19件(11.8%)増加した。

表 33 当事者別交通事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者	その他物件等
発生件数	180	98	1	33	129	42	31
増減数	+19	+26	+1	-11	+24	+3	+16

表 34 自転車の相手当事者別事故件数 ※自転車同士は1事故につき2件になっている。

	乗用車	貨物車	二輪車	自転車※	歩行者	その他 (相手不明、単独等)
発生件数	7	4	2	8	12	19

※表 33、表 34 の発生件数は第1当事者、第2当事者の合計数である。

自転車関与率：(自転車事故件数－自転車相互件数)÷発生件数＝47.1%

図 35 当事者別交通事故発生状況

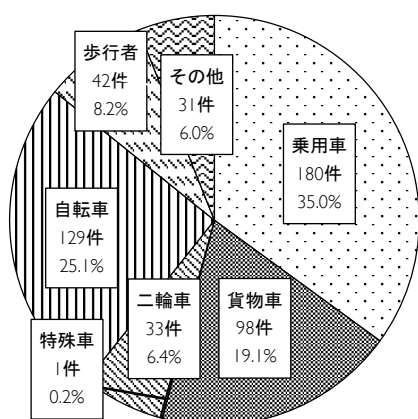
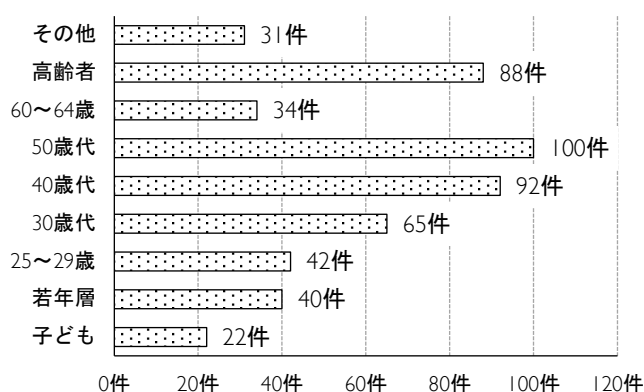


図 36 年齢別交通事故発生件数



(4) 年齢別交通事故発生状況

- ①年齢別では50歳代の100件(19.5%)が最も多く、次いで40歳代の92件(17.9%)、高齢者の88件(17.1%)の順だった。
- ②40歳代が前年より19件(26.0%)、高齢者が前年より17件(23.9%)増加した。

表 35 年齢別交通事故発生状況

	子ども	若年層	25歳 ～ 29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 ～ 64歳	高齢者	その他
発生件数	22	40	42	65	92	100	34	88	31
増減数	+10	+3	+8	-11	+19	+12	+4	+17	+16

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「子ども」は、幼児、小学生、中学生を合わせたもの、「若年層」は、高校生、中卒～19歳、20～24歳を合わせたもの、「高齢者」は年齢65歳以上をいう。

※「その他」は、ひき逃げ等で不明な場合や物件等をいう。

杉並区の交通事故概要
(令和5年1月～12月)

登録印刷物番号

令和6年3月発行

05-0124

発行 杉並区都市整備部杉並土木事務所
杉並区交通安全協議会

編集 杉並区都市整備部杉並土木事務所
(杉並区交通安全協議会事務局)
〒166-0015 杉並区成田東三丁目17番30号

電話 03-3315-4178